

010899その他の化学工業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2022	3	12 ～ 14	<p>膠化薬を製造する作業で、被災者が一人で洗浄工室内でジエチレングリコールジナイトレート（以下「DEGN」という。）濾過槽から容器にDEGN 17kgを払い出す作業に従事していたところ、何らかの原因で洗浄工室で爆発が発生し、洗浄工室は消失、周辺建物等も損壊した。爆発後に遺体の一部のDNA鑑定により被災者死亡が確認された。洗浄工室には、DEGN 16kg及びニトログリセリン1910kgが保管されていた。</p>	511	14	30 ～ 49
2022	3	10 ～ 12	<p>被災者は、普通乗用車（被災者所有の普通乗用車）を運転中、対向車線に進入し、対向してきた大型トラックと衝突したものの。被災者は普段から自身が所有する普通乗用車を業務に使用しており、また、災害発生当日、社用車は別の業務で使用されていた。</p>	231	17	1～ 9
2022	9	10 ～ 12	<p>直径1300mm、高さ1666mmの円柱状の貯水タンク内で倒れていた被災者Aを、直径450mmのマンホールから救出しようとした被災者Bがタンク内に入り被災者Aを救出した後、被災者Bがタンク内で倒れた。続いて、被災者Bを救出するため被災者Cが、送風後、タンク内に入り被災者Bを救出し、被災者Cも不調を訴えたもの。なお、被災者Aは死亡、被災者Bは意識不明の重体、被災者Cは軽症。</p>	519	12	100 ～ 299
2021	8	14 ～	<p>取引先から回収した汚泥をタンク車のタンクから廃棄物ピット（深さ1.3m）にダンプ投入した後、被災者はタンク内に残った汚泥を掻き出すためタンク内に入り、水圧及びスコップで掻き出していたところ、頭から倒</p>	418	10	100 ～

		16	れるようにタンク内から廃棄物ピットに落下し、約20分後に救出・搬送されたが、同日夕方に搬送先の病院で死亡が確認されたもの。			299
2020	8	14 ～ 16	製品の原料が積載されたパレット（約600kg）をトラックの荷台の左側後方に積み込もうとしたところ、トラックがゆっくりと前進を始めたため、トラックの荷台とフォークリフトが接触してフォークリフトが横転し、被災者がフォークリフトの下敷きになったもの。	222	2	100 ～ 299
2019	5	12 ～ 14	正午、事業場敷地南側に位置する焼却炉付近で爆発音がしたため、事業場従業員らが駆け付けたところ、被災者が火だるまになっていた。なお、燃えていた中心部には塗型剤を製造した時の廃液（有機溶剤）等が入ったペール缶が変形した状態で黒焦げとなっていた。被災者は救急搬送され全身95%火傷3度と診断され治療を受けていたが、後日死亡した。	519	14	30 ～ 49
2019	5	16 ～ 18	自動車修理用パテを缶に充填するラインにおいて、充填用ホッパー（深さ1.03mのタンク）内側の洗浄作業を被災者1名で行っていたところ、当該ホッパー内の底面に倒れているのが発見された。被災時は、有機ガス用防毒マスクを使用して、洗浄溶液であるジクロロメタン（含有率100%）をホースによりホッパー内部に投入して、内部に付着しているパテを除去していたものと推測される。	514	12	30 ～ 49
2019	9	16 ～ 18	2階開口部付近にて作業を行っていたところ、当該開口部から4m下の1階床面に墜落をしたもの。	414	1	1～ 9
2018	2	8 ～ 9	園芸用殺菌剤の製造プラントにて、翌日の生産開始の事前準備のため、原料受入ホッパーに、原料であるフレコンバッグ（フレコン）に入ったイソフタロニトリル（IPN）を投入する作業中に爆発が発生した。爆発が発生した付近に、半身炭化状態かつ背面火傷の状態の被災者を、爆発を聞いて駆けつけた発見者が発見し、119番通報した。後に病院にて死亡が確認された。	519	14	1～ 9
			花火工場で何らかの原因により爆発及び火災が発生し、コンクリート製平			

2018	6	8 ～ 9	屋建ての隣接する建屋3棟が全焼し、中央の建屋近くの屋外で被災者1が発見され、被災者は後日全身熱傷により死亡し、北東側の建屋から爆発による爆風、火災により焼死した被災者2が発見されたもの。中央の建屋のみコンクリート壁が吹き飛んでおり、この建屋内で爆発が発生したものである。	511	14	10 ～ 29
2018	6	8 ～ 9	花火工場で何らかの原因により爆発及び火災が発生し、コンクリート製平屋建ての隣接する建屋3棟が全焼し、中央の建屋近くの屋外で被災者1が発見され、被災者は後日全身熱傷により死亡し、北東側の建屋から爆発による爆風、火災により焼死した被災者2が発見されたもの。中央の建屋のみコンクリート壁が吹き飛んでおり、この建屋内で爆発が発生したものである。	511	14	10 ～ 29
2018	10	8 ～ 9	攪拌機に原料を投入作業中に、原料の入ったカゴと共に攪拌機内に転落し、原料が溶けた液(約60℃)により熱傷を負ったもの。入院加療中であったが、後日死亡したものの。	162	11	300 ～ 499
2017	1	8 ～ 9	工場内で、コンテナ側面に貼っている危険物シールを脚立に乗って剥がす作業を行っていた被災者が、地面に倒れているところを発見された。	371	1	10 ～ 29
2017	9	6 ～ 7	高さ3m、直径2.05mのウレタン原料混合タンク(反応槽)内の底部に倒れている被災者(防毒マスクは外れていた)が発見されたもの。被災時の目撃者はいないため、災害発生状況の詳細は不明だが、被災者近辺にヘラが落ちていた。なお、当該タンク開口部の蓋は開いており、床面から高さ1.1m、直径45cmである。当該タンク内に残存していた洗浄液(ジクロロメタン)10Lが抜かれていた。	514	12	30 ～ 49
2017	10	8 ～ 9	柔軟剤の原料物質(液状)を運搬してきたセミトレーラー式のタンクローリーが、所定の荷卸し場に一旦到着、枕木の上に乗るため前進しようとしたところ、後部バルブを開けようとローリーの車台後部に乗っていた荷卸し作業員が車台から転落、ローリーの後部車輪に轢かれ死亡した。	221	7	100 ～ 299
			工場PRプラント1Fで構内下請が印刷インキ用樹脂を梱包する作業を			

2017	12	8 ～ 9	行っていたところ、ホッパー周辺で爆発が発生し、1Fで作業を行っていた構内下請の代表者1名（重傷）と労働者5名（死亡1名、重体2名、重傷2名）が重度の火傷、4Fで作業を行っていた労働者6名が煙吸入等、屋外で作業を行っていた運送会社の労働者3名が爆風により軽傷を負った。	519	14	～ 29	10
2016	6	9 ～ 10	本社工場において、油脂の成分分離作業後、高温となった油脂をクッションタンクに移す作業中、何らかの原因でタンクが破損し、付近にいた被災者に大量の内容物がかかった。災害発生直後、病院に搬送され、治療を受けていたが死亡した。	391	15	～ 29	10
2016	8	9 ～ 10	高さ約7メートルの事業場第2工場の屋根のスレート部分を被災者が渡っている際、被災者の乗っている位置のスレートが破れ、コンクリート地面に墜落した。	415	1		1～ 9
2015	9	9 ～ 10	翌日の作業の準備のために出勤した労働者が、有機溶剤の回収槽付近で倒れている被災者を発見した。直後に休日の会社の様子を見に来た事業主とともに被災者の様子を見ていたが、一向に目を覚まさないため病院に搬送され、治療が行われたが、9月11日に脳ヘルニアのため死亡した。	999	99	～ 29	10
2015	5	15 ～ 16	粒剤製造部門の工場前にあるモルタル舗装された場所において、被災者は、一人で移動式傾斜ベルトコンベヤー（長さ3.5メートル×幅0.8メートル×高さ2.1メートル、重量272キログラム、車輪付き）の水洗作業を行った後、当該コンベヤーを保管場所まで移動させるため、一人でアスファルト舗装の構内道路上を人力で押していたところ、当該コンベヤーが横倒しになり、その下敷きとなって被災したものの。	224	6		30 ～ 49
2015	7	9 ～ 10	被災者は、製品である固形燃料の材料の破碎機が材料の詰まりにより止まったため、破碎機内に入り詰まった材料を取り除く作業を行っていた。作業は、破碎機を停止して行っていたが、一緒に破碎機の調整を行っていた同僚が、被災者が破碎機内にいることを知らず、破碎機を作動したため、被災者が破碎機に巻き込まれたもの。	162	7		1～ 9
			工場敷地内の構内道路（斜度6度）に設置されたマンホールから泡（※製				

2014	1	10 ～ 11	造の過程で使用した洗浄液が発酵し、発生すること) がわき出ているのを 巡回の際に見かけた被災者は、自ら泡消しを行うため、噴霧器を使用して 薬液を散布していたところ、立方体の形状のタンクを載せて直進してきた フォークリフト（最大荷重2トン）に轢かれた。	222	6	～ 299	100
2014	10	7 ～ 8	事業所内の製造プラントにて、反応炉に亜硫酸ナトリウムを投入後、空容 器を抱え、階段を降りていたところ、転落。床に頭部を強打し、意識不明 の状態で見倒れている被災者が発見された。	413	1	～ 299	100
2013	10	11 ～ 12	被災者は、取引先の製品の仕上がり状況を確認するため、メッキ工程にお ける乾燥槽をのぞきこんでいたところ、側方からきた自動搬送機と乾燥槽 にて乾燥工程中のメッキ用ハンガーとの間に挟まれ死亡した。	211	7	～ 29	10
2012	5	5 ～ 6	被災者は紛失した工具を探すため、7階建ての化学プラントを1人で搜索 し、「工具があったこと及び現在6階に居る」旨を無線にて同僚に伝えた 後、地面へ墜落した。	418	1	～ 299	100
2012	11	1 ～ 2	化学工場において、配管からの漏えい対応作業においての転落事故。被災 者らは、配管漏えい部分の調査確認と補修作業を行おうとしたが、漏えい 箇所が作業用通路から離れていたため、応急措置として漏えい部分に吸引 ホースを当てて仮固定することとした。調査確認に従事した2名のうち、1 名がホース固定作業等を行っていたところ、近傍で待機していたもう1名の 姿が見えなくなり、作業箇所下方約10mの地面に転落しているのが発見 された。	417	1	～ 99	50
2011	5	10 ～ 11	事業場敷地内の雑草刈り業務に従事していた被災者は、事業場境界フェン スから敷地外に伸び育った雑草を剪定バサミで刈り取るため、敷地境界外 側の県道路側帯より刈り取り作業を行っていたところ、県道下り車線を南 下してきた一般乗用車が車道から逸走し被災者を巻き込んだ状態で事業場 フェンスをなぎ倒し停車した。被災者は即死したもの。	231	17	～ 49	30
		16	破碎されたアスファルト骨材搬送用の傾斜コンベアに取付けられている骨 材飛散防止用ゴム板が外れ骨材がこぼれ出たため、被災者が一人で当該骨 材の取除き作業及び当該ゴム板の修理等を行っていた。午後5時頃、他の				1～

2011	2	～ 17	作業者が作業状況を確認するため、当該コンベアが設置された建屋に行ったところ、コンベアのテールプーリー部に巻き込まれている状態の被災者を発見したものの。	224	7	9
2011	5	～ 5	粉末洗剤製造工程の充填機械において、粉末洗剤の梱包・充填業務のラインの糊付けローラー部分にグリスを塗る作業を行う際、ローラーを停止させておらず、ローラーの回転軸に突出した部分があったため、作業着の右胸のポケットから右腕、首元の作業着の部分までがローラーの回転軸に巻き込まれ死亡したものである。	169	7	100 ～ 299
2010	10	1 ～ 2	コピー機のトナーを製造する工程において、フィルタープレスから排出されたトナーを受けるシューター上部の格子状の枠に溜まったトナーをフィルタープレスの2階架台上から高圧洗浄していた際、誤って金型の濾板間に頭部を挟まれた。	169	7	100 ～ 299
2010	2	～ 16	当該事業場での接着剤製造工程において、被災者がドラム缶に入った接着剤の原料である無水ケイ酸と有機溶剤（トルエン）の混合物を、同ドラム缶から攪拌機に注入していた際に、静電気が発生し、同混合物に引火、爆発炎上し、被災者にも引火、全身を熱傷したものの。病院へ搬送され、熱傷等で経過観察中だったが、約2ヶ月後に死亡した。	512	14	1～ 9
2009	11	19 ～ 20	漉割機（長さ4.6m、幅1.6m、高さ1.2m）を用いて、自動車用ウレタンをスライスする作業をしているときに、加工テーブル下部にある刃の研磨用砥石の位置を調整するためのハンドルを操作しようと、テーブル下に潜り込んだ際、加工材料の送りローラーに巻き込まれて被災した。	169	7	50 ～ 99
2009	11	～ 20	工場内点火薬製造工室において、被災者は硝酸カリウム、ボロン（ホウ素）と水を混合する槽に、サイクロンから回収したボロン、混合槽液の残り、濃縮スラリー（ボロン+軟水）、製品の残りを投入したあと攪拌機を起動させた。同時に混合槽内に水を投入し始めた。その約2分後に混合槽が爆発し、被災者は死亡した。	511	14	100 ～ 299
		13	被災者は次の仕込みに備え、接着剤の添加材等を製造するミキサー（混合			1～

2009	8	～	機)の釜(φ1260、H1530)内に入り、トルエンを使用しウエスで釜の洗	514	12	9
	14		浄を行っていた。同僚が様子を見に行くと釜内でうずくまっていた。			
2008	4	16	歯磨き用の歯磨き粉を製造する混合装置の洗浄作業のために装置に水を注	391	6	300
	～		入していた。その際、装置の空気抜き部分が密閉されていたため、混合装			～
	17		置内に圧力がかかり、材料投入口の直径20cmの閉じ蓋が飛んで作業してい			
			た被災者を直撃して死亡した。			
2008	9	10	被災者は、技能講習取得のために見通しのよい交差点(信号機なし)でバイ	231	17	50
	～		クで直進していたところ、渋滞していた対向車線から乗用車が急に右折し			～
	11		てきたため、避けきれずに衝突した。			99
2008	4	8	農薬(石灰硫黄合材)の製造工場の1階において、地下タンク(深さ	514	12	1～
	～		1.8m、径1.74mの円筒形製品タンク)にたまった残渣物の清掃作業のため、			9
	9		タンク内で1名、タンク外で1名が作業を行っていたところ、タンク内			
			で発生した有害ガスを吸入してタンク内の作業者が倒れた。これに気付い			
			たタンク外の作業者が助けようとタンク内に入ったが、同様に有害ガスを			
			吸入して倒れた。			
2008	4	8	農薬(石灰硫黄合材)の製造工場の1階において、地下タンク(深さ	514	12	1～
	～		1.8m、径1.74mの円筒形製品タンク)にたまった残渣物の清掃作業のため、			9
	9		タンク内で1名、タンク外で1名が作業を行っていたところ、タンク内			
			で発生した有害ガスを吸入してタンク内の作業者が倒れた。これに気付い			
			たタンク外の作業者が助けようとタンク内に入ったが、同様に有害ガスを			
			吸入して倒れた。			
2007	11	10	感光材の製造作業中、火災が発生し、工場1階の包装室で感光材の包装作	519	16	30
	～		業を行っていた作業員2名が焼死した。			～
	11					49
2007	11	10	感光材の製造作業中、火災が発生し、工場1階の包装室で感光材の包装作	519	16	30
	～		業を行っていた作業員2名が焼死した。			～
	11					49
			フィルムロール(直径0.8m、長さ1.5m、重量約0.77t)を箱			

2006	12	11 ～ 12	<p>詰めするため、最大積載過重1.6tのフォークリフトの片方の爪にフィルムロールを刺して、高さ1.57mの位置から荷を下降させたところ、フィルムロールが爪から抜け落ち、前方で荷の介助をしていた被災者が、フィルムロールと鋼製の移動ラック側面に挟まれた。</p>	222	7	～ 49	30
2006	7	17 ～ 18	<p>労働者と事業主の2名が薬品の調合実験を行っていたところ有毒ガスが発生し、吸引した労働者は死亡し、事業主は意識不明の重体となった。</p>	514	12	1～ 9	
2006	8	13 ～ 14	<p>工場内の沈殿池の中央部で、浚渫船による沈殿物の除去作業を午前中被災者1人で行っていたが、昼休みになっても現場詰所に戻ってこないため、上司が浚渫船に向かい確認したところ、浚渫船舳先のウインチ用ポストの安全帯取付設備に安全帯を掛けたまま意識がなく宙吊りにになっている状態の被災者が発見された。</p>	149	1	～ 499	300
2006	7	17 ～ 18	<p>フェノール樹脂の玉チップを製造する作業が終了し、製品を排出し終わった後の高速混合機（直径103センチ、深さ80センチ）を清掃するため上部の蓋を開けたところ、誤ってミキサー槽内に転落し、電源を切った後の惰性で回転している攪拌羽根（最大径86センチ、重量31.90キロ）に巻き込まれた。</p>	162	7	～ 49	30
2006	6	22 ～ 23	<p>被災者は遠心分離機の内面に付着している製品の掻き落とし作業のため、点検窓を開け、ヘラで作業を行っていたところ、被災した。当該分離機内には酢酸メチルを溶媒とした粉体製品があり、窒素パーজনされた状況であったが、被災者は有機溶剤用防毒マスクを着用していた。</p>	714	12	～ 99	50
2006	4	15 ～ 16	<p>被災者は、塩化ビニールコンパウンドの原料を混ぜるミキサー（直径約1M、深さ約80cmの円柱形）の内部に入り、ジクロルメタンを含有した洗浄剤を使用して同ミキサーの洗浄作業を行っていたところ、ジクロルメタンの蒸気を吸入した。</p>	514	12	～ 29	10
2006	2	11 ～ 12	<p>事業場内の倉庫（花火半製品一時置場）で花火が爆発し、火災が発生した。被災者は、倉庫の入り口付近で仰向けに倒れていた。</p>	511	14	～ 29	10

2005	12	13 ～ 14	粉剤農薬の包装及びダンボール詰めラインにおいて、ダンボールケーサーに注油等の調整作業を行っていたところ、ダンボールケーサーの下に設け てあるピット内で倒れていた。	169	7	30 ～ 49
2005	3	14 ～ 15	工場内で、爆破処理作業中、手榴弾1個が爆発した。	511	14	50 ～ 99
2004	6	3 ～ 4	社用車を運転中、国道で対向車と衝突した。	231	17	1～ 9
2003	10	14 ～ 15	営業車で国道を走行中、橋の手前のガードレールに激突し炎上した。	231	17	10 ～ 29
2003	9	8 ～ 9	機械製品置場の出入口付近にあったパレットを移動させるため、フォークリフト（1.25t）を操作していたときに操作を誤って鉄柱に激突した。	222	3	100 ～ 299
2003	7	5 ～ 6	化学会社のトナー工場の混練設備において、攪拌（かくはん）機（直径135cm、高さ105cm）の清掃作業中に、攪拌（かくはん）機底面にある原料吐き出し口（25cm×35cm）と回転羽根に右上腕部をはさまれ切断した。	162	7	30 ～ 49
2003	6	16 ～ 17	洗濯用洗剤を搬送するベルトコンベヤの目視点検のため、ベルトコンベヤの下部に潜り込んでベルトの蛇行状況等を点検していたときにローラーに巻き込まれ窒息した。	224	7	100 ～ 299
2003	1	10 ～ 11	年末年始の休暇期間中に構内を巡回していたところ、循環ポンプのバルブのパッキンが破裂しているのを発見しパッキンの交換作業をする前に、高さ5mのところにあるケーブルラック（幅40cm）に上がって元バルブを閉止しようとしたときに、積雪により足元が滑り5m下の構内道路に墜落した。	418	1	30 ～ 49

2002	8	11 ～ 12	フィルム工場内で、樹脂フィルムロールの荷造りのため最大積載荷重1.25tのリーチフォークリフトを運転していたときに、フォークリフトの後部と工場内の柱との間に両肢を挟まれた。	222	7	～ 99
2002	2	17 ～ 18	倉庫1階の物上げ装置荷台に載っていた製品を2階に上げるため、物上げ装置の荷台に乗って製品を運んでいたところ、物上げ装置を吊っていたワイヤーロープが結束部から抜けたため、荷台とともに3.9m下の1階に墜落した。	214	1	～ 29
2001	10	16 ～ 17	押出し成形機で連続運転状態で樹脂製容器を製造中に、成形機のボルトが外れて下に落ちたため成形機を「準備」の状態にしてスライドの往復運動を停止させ、成形機とスライドの間に頭を入れてボルトを拾おうとしたが十分なスペースが無かったのでスライドを上昇させるため操作盤の「上昇」スイッチを押そうとしたところ、誤って「下降」を押してしまい頭部を挟まれた。	169	7	～ 29
2001	9	11 ～ 12	ガラス製の蒸留装置をトルエンで洗浄中、トルエン入りのドラム缶から突然立ち上がった炎に包まれ体表面積の65%に火傷を負った。	512	16	～ 99
2001	8	10 ～ 11	粘着剤の原料を混合するミキサー槽の内部で容器の内壁に付着した粘着剤の残留物をトルエン(100%)を染み込ませた雑巾で拭き取る作業中に、容器内で意識を失った。	514	12	～ 29
2000	3	14 ～ 15	業務用粉石鹼を製造するミキサーに原料を投入するため、投入する高さまでフォークリフトのフォークを上昇させてパレットを装着し、足場を作っていたときにミキサーの内部に転落した。	162	7	1～ 9
2000	1	5 ～ 6	ドラム缶に入った固形化したアクリル酸(洗剤原料)を液状化していたところ、白い煙と刺激臭が発生したので対応策を練っていたとき、加温室内のアクリル酸が爆発し、鉄製の扉とともに爆風に吹き飛ばされた。	512	14	～ 99
1999	11	0 ～ 1	原料クラッシャーの攪拌シャフトに両腕を巻き込まれた。	169	7	～ 29

1999	8	20 ～ 21	温泉花火大会が開催されている海岸において、海上に浮かべられた打ち上げ花火用台船から約1.7m下の海に転落した。	511	6	10 ～ 29
1999	2	16 ～ 17	ダイレックス製造所でダイレックスの充填、包装作業を行っていたときに爆発した。	911	14	30 ～ 49
1999	2	16 ～ 17	ダイレックス製造所でダイレックスの充填、包装作業を行っていたときに爆発した。	911	14	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。